

第1学年 5組 学級経営方針

1 特別支援学級目標

学校の教育目標を踏まえ、将来社会に出て自立した生活が営める生徒の育成を目指し、次のような生徒を育てる教育を推進する。

- ア 規範意識を身につけ、自主的に考え、判断する生徒
- イ コミュニケーション能力や社会性を身につけ、思いやりのある生徒
- ウ 基本的な生活習慣を身につけ、健康で根気強い生徒
- エ 社会生活に必要な基礎的な学力を身につけ、自立し、生きる力をもつ生徒

2 学級目標

- ・ 基本的な生活習慣を身につけ、自分のことは自分でできるようにする。
- ・ 登校する習慣をつけ、集団生活への適応力とコミュニケーション能力を高める。
- ・ たくましく生きる力を養うために、健康の維持、体力の向上に努める。

3 学級の実態

- ・ 男子2名、女子1名 計3名の在籍。
- ・ 3名とも不登校傾向のある生徒であり、登校する習慣を定着させることが必要である。友好的な関係を築きつつあるが、コミュニケーションの取り方には注意が必要である。続けて登校すること自体が身につけておらず、家庭環境への支援が必要な生徒もおり、個別の支援が必要である。食物アレルギーのある生徒もおり、特別の配慮が必要である。

4 指導の重点

- ・ 不安を取り除き、休まずに登校できるように支援を行う。
- ・ 基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ・ 学校生活に見通しを持たせる。
- ・ 学習規律（姿勢・態度）などを意識させる。
- ・ 自分の役割・仕事に責任をもって行わせる。
- ・ 異年齢の集団生活の中で適切なコミュニケーション能力を養う。

5 指導上の留意事項

- ・ 事前に具体的な指示を出し、見通しを持って行動させる。
- ・ 委員会や学級係など自分の仕事に責任を持って行わせるために、自己チェックをさせる。
- ・ 保護者との連絡を取りながら共通理解のもとで支援・指導していく。
- ・ 特に食物アレルギーなど健康面に留意しなければならない生徒については、保護者、教員間での連携を密に取り合う。
- ・ 家庭への支援が必要な生徒については、福祉などの支援機関と連携しながら、アプローチをしていく。

第2学年 5組 学級経営方針

1 特別支援学級目標

学校の教育目標を踏まえ、将来社会に出て自立した生活が営める生徒の育成を目指し、次のような生徒を育てる教育を推進する。

- ア 規範意識を身につけ、自主的に考え、判断する生徒
- イ コミュニケーション能力や社会性を身につけ、思いやりのある生徒
- ウ 基本的な生活習慣を身につけ、健康で根気強い生徒
- エ 社会生活に必要な基礎的な学力を身につけ、自立し、生きる力をもつ生徒

2 学級目標

- ・ 基本的な生活習慣の確立を図り、生活に必要な力を身に付けさせる。
- ・ 学ぶ楽しさを知り、問題解決への意欲をもたせる。
- ・ コミュニケーション能力を高め、集団生活の力と社会性を育てる。
- ・ 協力し合い、互いに思いやる心を育てる。

3 学級の実態

比較的、指示理解ができる生徒が多いが、全体指示の時には、注視したり、自分で考えて動いたりすることが難しいことがある。教員の指示を素直に聞けない生徒もいる。

また、障害の特性もあるが、コミュニケーションが自己中心的で他者の気持ちを理解したり、他者のことを意識したりすることが難しい生徒が多い。些細な勘違いや意思疎通が図れずにトラブルが起こることも少なくない。

4 指導の重点

- ・ 基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ・ 学習規律（姿勢・態度）などを徹底する。
- ・ 正しい言葉遣いができるよう、繰り返し指導する。
- ・ 個に応じた指導法を考え、指示の仕方など、工夫して授業を行う。
- ・ 話をしてよい場面なのか理解させ、けじめをつけさせる。
- ・ 他者の気持ちを理解できるよう、繰り返し指導する。
- ・ 今、何をすべきなのかを自分で気付けるように声掛けの工夫をする。
- ・ 卒業後の進路について、考える機会を設定し、意識をもたせる。

5 指導上の留意事項

指示を出す前に、指示を聞く態度をきちんととらせ、具体的な説明を入れながら、理解できているか確認する。規律や言葉遣いは繰り返し指導し、定着を図る。

また、言語による指示だけでなく、視覚にも訴えかけながら指導を展開していく。

第3学年 5組 学級経営方針

1 特別支援学級目標

学校の教育目標を踏まえ、将来社会に出て自立した生活が営める生徒の育成を目指し、次のような生徒を育てる教育を推進する。

- ア 規範意識を身につけ、自主的に考え、判断する生徒
- イ コミュニケーション能力や社会性を身につけ、思いやりのある生徒
- ウ 基本的な生活習慣を身につけ、健康で根気強い生徒
- エ 社会生活に必要な基礎的な学力を身につけ、自立し、生きる力をもつ生徒

2 学級目標

- 最上級学年としての自覚を持ち、学級の中心となって行動する。
- 自他の理解を深め、仲間を思いやる気持ちを育てる。
- 自らの意思で希望する進路を選択する。

3 学級の実態

男子9名、女子6名、計15名と多くの生徒が在籍するが、そのうち不登校傾向が5名と多い。愛の手帳3度から手帳の取得が困難な生徒まで多様な生徒が在籍し、障害特性や発達段階にも個人差がある。

2年間の学校生活の積み重ねから見通しをもって自主的に活動できる場面も増えたが、個々や事前に声をかけることも必要である。障害特性や発達段階、自尊感情が低いなどの理由から、コミュニケーションに課題のある生徒が多い。自分の気持ちを言語で表出できず、思うようにいかずに苛立ち暴言や暴力、机や椅子、壁などに当たり散らす生徒もいる。自己肯定感が低いために自信がなく、人前に出ることを恥ずかしがり、リーダーシップを発揮することが難しい。

4 指導の重点

- ・方法を示唆しながら、自分たちで課題に取り組む姿勢を育てる。
- ・自分で考えて行動できるように、声かけを工夫する。
- ・成功体験を多く積み重ね、「できた」という喜びを味わいながら自尊感情や自己肯定感を向上させ、自信をつけられるような指導を繰り返し行う。
- ・事前に説明をする。視覚に訴えるなど、指示の仕方や教材も工夫する。
- ・日常の終学活や教科の授業で発表の機会を設け、自己を表現する方法を身につける。
- ・思うようにいかない時にどうすればよいのか、具体的に表出の方法を提示する。
- ・対人関係を考慮し、座席配置や整列、グルーピングにも配慮が必要とする。
- ・時間を意識して行動できるように、時間を決める。
- ・進学を見据え、職員室の入り方や日常の話し方などを意識させる。
- ・適切な進路選択のために面談を行い、情報を発信し、保護者とも共有する。

5 指導上の留意事項

- ・対人関係に課題をもつ生徒には、並び方やグループ作りでも同じにならないように配慮し、トラブルにつながらない方法を身につけさせる。
- ・個だけでなく、集団を意識して行動させる。
- ・服薬や健康上、水分補給が欠かせない生徒がいるので、適宜声かけを行う。